

チベット族の服飾は多彩にして華麗であり、中国各民族の中にも特に特色をもっています。気温の高下は大きく、太陽の光が強く、紫外線も強い「世界の屋根」と呼ばれるチベット高原で暮らしているため、チベット人はフェルトまたは毛皮で作った帽子をかぶって頭部を直射日光から保護しています。チベット族の服装は、地域によってわずかの違いはありますが、基本的には、中に長袖の短いシャツを着て、その上に大きくたっぴりした長袍を着ます。そして帯をしめ、軟らかい長靴をはきます。袖つきの長袍の袖の長さは膝下まであり、袍は足までとどきます。袖を着る時は帯をしめ、右腕を外に出し、懐中の空間に、ツァンバやバターを入れた碗、はては子供まで中に入れることができます。働く時は、両腕を出し、両袖を腰に巻きます。休む時は、全身を長袍で包みこんだようにして寝ます。長い袖は枕にでき、まるで寝袋のようです。こうして自由に脱いだり、重ねたりできる多目的な衣服は、高地の遊牧民にとってまことに実用的なものです。

チベットの女性は、いつもイヤリング、首飾り、胸飾り、腕輪などさまざまな装飾品を身につけるが、みな貴重な珊瑚、めのう、金、象牙などをはめこんであり、地区によっておのおのの特徴をもっています。チベット族の服装と頭飾りのデザインは、地区ごとの違いはあっても、その模様と色づかいはみな、吉祥を願い美麗を尊ぶことで共通しています。

チベット人の名前についてよく知らない人は、益西卓瑪という、益西が姓で卓瑪が名前か、あるいはその逆かなどと考えるようですが、そうではなく、両方とも名前です。普通のチベット人には姓はないのです。チベット人の名のうち大多数を占めるのは、仏教にゆかりの深い名前です。私の名前は例として説明します。益西は知恵を意味する、卓瑪はターラ・菩薩という意味です。また、仏教と関係のない名前もあります。よくあるのは、月という意味のダワ、太陽という意味のニマなどです。さらに仏教色の薄い名前としては、家族の願いが込められた名前があります。例えば、男の子の誕生を待ち望む家庭に女の子ばかり生まれるというときには生まれた女の子に、男の子を連れてくる子、という意味のプティーという名前を付けたりします。普通名前を呼ぶときは、呼びやすいように、適当に省略して呼んだりします。命名は、両親や祖父母など家族の者がするか、またはラマに命名を依頼して付けてもらうかのいずれが多いです。

今年の八月、私は家族と一緒に古くからチベット仏教の聖地として知られているラサ（ラ薩）を巡礼に行きました。チベット人にとって一生に一度は訪れたいと思いがれる所です。

西寧から「世界の屋根を走る鉄道」と呼ばれる青蔵鉄道に乗って、23 時間を経てサラに着きました。世界の鉄道の中で最も標高の高い 5,072m を走ることから世界中の注目を浴びています。サラ到着まで車窓からの風景は、普段私達が目にするのできない大自然ばかりです。そして、五体投地をしながら青蔵公路を歩きラサを目指す巡礼者達の姿を見かけることも。

ラサの中心にある大昭寺(ジョカン)はチベット人にとって重要な宗教活動の場で、仏教信徒が憧れる巡礼の聖地です。この寺院は、約 1300 年の歴史をもつ、湖を埋め立てて建設されました。チベット各地からラサに来る巡礼者は、大昭寺に詣でることを目的としています。大昭寺の正門前では、毎日チベット仏教独特のお祈りの仕方、五体投地で祈る熱心なチベット仏教徒がたくさんいます。大昭寺を回る道は、八廓と言います。

チベットというときすぐチベットの象徴であるポタラ宮を思い出します。昔のチベット政府の根拠地としてチベットの中心地ラサのマルポリの丘の上に十数年をかけて建設された宮殿です。13 階建て基部からの総高 117m、単体としては世界でも最大級の建築です。政治的空間の白宮と宗教的空間の紅宮と呼ばれる 2 つの領域に大きく分けています。白宮は、歴代ダライ・ラマの居住と政治的な執務にあてられた領域です。紅宮には多くの仏塔(チョルテン)が納められています。現在は博物館として使用されています。

ラサには有名なお寺が数多いあります。ガンデン寺(甘丹寺)、セラ寺(色拉寺)、デブン寺(哲蚌寺)など。

また、「チベットの江南」の美名を持つ林芝(ニンティ)にも行きました。林芝は、チベットの東南部ヤルツァンボ江下流域に位置し、平均海拔は 3,000m 前後で、最も海拔が低いところでは 900m しかありません。林芝の森林は原始的な景観がまだ残っている、「天然の自然博物館」と呼ばれています。

なぜ私は留学先に日本を選んだのか。その答えは、私は高校の時、両親が働いている学校に一人の日本人の先生が学生たちに日本語を教えに来ました。昔の戦争に関わる中国のドラマ及び政府の宣伝などの原因で、多少悪い印象を国民のみんなに与えたでしょう。最初に、皆さんは少し怖い目で見ましたが、その先生はいつも学生さんのことを大切にしてくれて、

自分の休む時間も放棄して日本語を教えたり、貧困の学生にお金を貸したり、学業の優秀な学生を日本に留学させたりしました。一生懸命に頑張ったと思います。これらの行為で、日本人に対する間違っているイメージを転覆させました。その先生との出会いをきっかけとして、私は多少真実の日本を知り、日本に関して興味が深くなりました。また、大学時代の先生たちはほとんどが日本に長期あるいは短期の留学経験があり、いつも日本の研究教育実力、研究環境、施設などを褒めています。その影響で、私も自分の視野を広げてもっと大きい世界を見たい、先進国である日本の社会と文化を了解したい、日本の最先端の薬学知識を身につけ、将来チベット民族薬の発展に自分の力を入れたいという思いが芽生えた、だから日本に留学することを決意しました。

青海省は中国内陸に比べて、教育経済などの発展が落ちている地域です。私は両親の支持で幸いに日本に留学するチャンスに恵まれた、だから日本での貴重な時間を費やすことなく、研究に努力することはもちろん、いろいろな人たちとのコミュニケーションより異文化を理解すること、恐れず新しい環境に対する恐怖を克服すること、視野を広げて思考能力を向上させること、様々な人生経験を積むことなども留学に大きい意味があり、これらの能力を持つ人間になって、将来日本での留学経験を通じて日本と中国の薬学交流を促進するのは私の目標です。また、チベット高原は特殊な地理位置で海拔が高く日照時間が長いなどの特徴をもつ、そこで沢山の薬用価値が高い植物が生長しています。しかし、今中国にチベット薬の研究者は少なく、先端技術が少なく、研究の進捗状況も非常に緩慢なことが現状です。この厳しい状況を改善するために、私はチベット人として研究員として日本で学べた知識や研究技術を応用し、多くの人たちにチベット薬の価値を認めさせ、伝統的なチベット薬の発展と世界の人たちの健康のために頑張りたいと思います。

次に、私の研究分野について、簡単に紹介します。